

資料

資料 3-1 予備調査

資料 3-2 事例調査

資料 3-3 から 3-10 事例の経緯

言語障害と発達性協調運動障害に関する調査

<調査の趣旨>

平成 25 年度から、文部科学省の科学研究補助金をうけて「言語障害のある子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究」を進めております。この研究は、経験知として受け止められている言語障害と協調運動との関係性を明らかにすることを目的としています。そこで、まず、「ことばの教室」で指導を受けている言語障害のある子どものうち、発達性協調運動障害の傾向のある子どもがどのくらいの割合で存在するのか、を明らかにするための予備的調査として、この質問紙を作成しました。今回は、試行的に調査を行い、質問項目等の検討を行いたいと考えています。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

<結果の取り扱い>

この調査は、上記の趣旨に基づき、言語面と運動面について尋ねています。この調査の回答は、本研究においてのみ使用いたします。得られた回答用紙は、鍵のかかるロッカーで慎重に保管します。また、結果の処理に関する電子データの取り扱いもウイルス対策を十分に施した PC に保管するなど、厳重に取扱います。また、結果の報告では個人が特定される形で公表されることはありません。

<記入上のお願い>

自由記述の欄には、対象児の特徴的な事柄について簡潔に記載してください。

選択肢の回答には、該当する数字に○をつけてください。

研究代表者

国立特別支援教育総合研究所

上席総括研究員 小林 倫代

〒239-8585 横須賀市野比 5-1-1

TEL : 046-839-6879

学年：____年生、年齢：____歳____月、性別：男・女、記入者：_____

主訴： 1. 構音障害 2. 吃音 3. 言語発達遅滞 4. その他

状態像：_____

ことばのテスト絵本の結果

①pa-ta-ka を 10 回続けて、リズムカルにスムーズに言う。

(つまずいた回数に○を付ける)

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

②閉眼片足立ち（右軸）姿勢保持時間（____秒）

1. 15sec 未満 2. 15～30sec 3. 30～45sec 4. 45～60sec 5. 60sec 以上

③閉眼片足立ち（左軸）姿勢保持時間（____秒）

1. 15sec 未満 2. 15～30sec 3. 30～45sec 4. 45～60sec 5. 60sec 以上

④けんけん（右軸）

1. 片足姿勢を保持することが難しい、2. 10 跳びまでの間によろけてしまう、
3. 上体がふらつくが、10 跳びは継続して可能、4. 安定して 10 跳び以上可能

⑤けんけん（左軸）

1. 片足姿勢を保持することが難しい、2. 10 跳びまでの間によろけてしまう、
3. 上体がふらつくが、10 跳びは継続して可能、4. 安定して 10 跳び以上可能

⑥けんぱー

1. 「けんぱ」の一連の動きができない、2. 1 回できるが、続けて行うことは難しい
（「ぱ」のあとに休憩が入る）、3. 一連の動きにぎこちなさがある、4. 一連の流れを
スムーズに行う

⑦けんけんぱー

1. 一連の動きができない（「けんぱ」と異なる動きができない）、2. 1回できるが、続けて行うことは難しい（「ぱ」のあとに休憩が入る）、3. 一連の動きにぎこちなさがある、4. 一連の流れをスムーズに行う

⑧タンデム（継ぎ足歩行）

1. 継ぎ足姿勢をとることができない、2. 10歩までの間によろけてしまう、3. 上体がふらつくが、10歩は継続して歩行可能、4. ふらつきなしに10歩以上可能

★ここからは、実際の場面を観察するのではなく、対象の子どもと同年齢の子どもの様子を比べて（印象で）対象児の実態を5段階の評定で回答をしてください。

		全くあてはまらない(できない)	あまりあてはまらない(よくできない)	普通	ややあてはまる(まあできる)	十分あてはまる(できる)
1	ねらったところにボールを投げる	1	2	3	4	5
2	2m程度の距離から投げられた小さなボールをキャッチする	1	2	3	4	5
3	近づいてきたボールをバットで打つ	1	2	3	4	5
4	小さな障害物をジャンプして超える	1	2	3	4	5
5	同年代、同性の他の子どもと同じように走れる	1	2	3	4	5
6	思った通りに身体を動かす	1	2	3	4	5
7	書字や色塗りはクラスの他の子どもたちと同じくらい早い	1	2	3	4	5
8	書いた文字、数字は読みやすく正確である	1	2	3	4	5
9	文字や塗り絵を描く時、適度な筆圧である(過度の力を加えたりしていないか)	1	2	3	4	5
10	絵を正確に切り取れる	1	2	3	4	5
11	身体をたくさん動かす活動的なゲーム(運動)への参加に興味がある	1	2	3	4	5
12	初めてやる運動も他の子ども達と同じように上達する	1	2	3	4	5
13	片付けや靴の着脱などが素早く、正しい	1	2	3	4	5
14	店で商品などを乱暴に扱わない	1	2	3	4	5
15	疲れやすかったり、姿勢が崩れやすかったりしない	1	2	3	4	5
16	左右を理解している	1	2	3	4	5
17	前後を理解している	1	2	3	4	5
18	上下を理解している	1	2	3	4	5
19	経験したことを筋道立てて話す	1	2	3	4	5
20	ことばの意味(使い方)を理解している	1	2	3	4	5
21	語彙がある	1	2	3	4	5
22	休み時間に友達と活動する	1	2	3	4	5
23	相手の話を聞く	1	2	3	4	5

言語障害と発達性協調運動障害に関する調査

<調査の趣旨>

平成 25 年度から、文部科学省の科学研究補助金をうけて「言語障害のある子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究」を進めております。この研究は、経験知として受け止められている言語障害と協調運動との関係性を明らかにすることを目的としています。平成 26 年度は研究の 2 年目にあたり、「ことばの教室」での指導が言語障害のある子どもの言語面と運動面の成長を促すことを明らかにするために、この質問紙を作成しました。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

<結果の取り扱い>

この調査は、上記の趣旨に基づき、言語面と運動面についてその指導内容と子どもの変容について尋ねています。この調査の回答は、本研究においてのみ使用いたします。得られた回答用紙は、鍵のかかるロッカーで慎重に保管します。また、結果の処理に関する電子データの取り扱いもウイルス対策を十分に施した PC に保管するなど、厳重に取扱います。また、結果の報告では個人が特定される形で公表されることはありません。

<記入上のお願い>

自由記述の欄には、言語面・運動面に関する特徴的な事柄について簡潔に記載してください。

選択肢の回答には、該当する数字に○をつけてください。

研究代表者

国立特別支援教育総合研究所

上席総括研究員 小林 倫代

〒239-8585 横須賀市野比 5-1-1

TEL : 046-839-6879

H26年

整理番号

学年：_____年生、性別：男・女、 記入者：_____

<指導目標>

<指導内容：活動を簡潔に>

言語面：_____

運動面；_____

<子どもの変容（H25年11月からH26年10月）>

言語面：_____

運動面；_____

①pa-ta-ka を 10 回続けて、リズムカルにスムーズに言う。

(つまずいた回数に○を付ける)

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

②閉眼片足立ち(右軸) 姿勢保持時間(秒)

1. 15sec 未満 2. 15~30sec 3. 30~45sec 4. 45~60sec 5. 60sec 以上

③閉眼片足立ち(左軸) 姿勢保持時間(秒)

1. 15sec 未満 2. 15~30sec 3. 30~45sec 4. 45~60sec 5. 60sec 以上

④けんけん(右軸)

1. 片足姿勢を保持することが難しい、2. 10 跳びまでの間によろけてしまう、
3. 上体がふらつくが、10 跳びは継続して可能、4. 安定して 10 跳び以上可能

⑤けんけん(左軸)

1. 片足姿勢を保持することが難しい、2. 10 跳びまでの間によろけてしまう、
3. 上体がふらつくが、10 跳びは継続して可能、4. 安定して 10 跳び以上可能

⑥けんぱー

1. 「けんぱ」の一連の動きができない、2. 1 回できるが、続けて行うことは難しい
(「ぱ」のあとに休憩が入る)、3. 一連の動きにぎこちなさがある、4. 一連の流れを
スムーズに行う

⑦けんけんぱー

1. 一連の動きができない(「けんぱ」と異なる動きができない)、2. 1 回できるが、
続けて行うことは難しい(「ぱ」のあとに休憩が入る)、3. 一連の動きにぎこちなさ
がある、4. 一連の流れをスムーズに行う

⑧タンデム(継ぎ足歩行)

1. 継ぎ足姿勢をとることができない、2. 10 歩までの間によろけてしまう、3. 上
体がふらつくが、10 歩は継続して歩行可能、4. ふらつきなしに 10 歩以上可能

★ここからは、実際の場面を観察するのではなく、対象の子どもと同年齢の子どもの様子を比べて（印象で）対象児の実態を5段階の評定で回答をしてください。

	全くあてはまらない(できない)	あまりあてはまらない(よくできない)	普通	ややあてはまる(まあできる)	十分あてはまる(できる)	
1	ねらったところにボールを投げる	1	2	3	4	5
2	2m程度の距離から投げられた小さなボールをキャッチする	1	2	3	4	5
3	近づいてきたボールをバットで打つ	1	2	3	4	5
4	小さな障害物をジャンプして超える	1	2	3	4	5
5	同年代、同性の他の子どもと同じように走れる	1	2	3	4	5
6	思った通りに身体を動かす	1	2	3	4	5
7	書字や色塗りはクラスの他の子どもたちと同じくらい早い	1	2	3	4	5
8	書いた文字、数字は読みやすく正確である	1	2	3	4	5
9	文字や塗り絵を描く時、適度な筆圧である(過度の力を加えたりしていないか)	1	2	3	4	5
10	絵を正確に切り取れる	1	2	3	4	5
11	身体をたくさん動かす活動的なゲーム(運動)への参加に興味がある	1	2	3	4	5
12	初めてやる運動も他の子ども達と同じように上達する	1	2	3	4	5
13	片付けや靴の着脱などが素早く、正しい	1	2	3	4	5
14	店で商品などを乱暴に扱わない	1	2	3	4	5
15	疲れやすかったり、姿勢が崩れやすかったりしない	1	2	3	4	5
16	左右を理解している	1	2	3	4	5
17	前後を理解している	1	2	3	4	5
18	上下を理解している	1	2	3	4	5
19	経験したことを筋道立てて話す	1	2	3	4	5
20	ことばの意味(使い方)を理解している	1	2	3	4	5
21	語彙がある	1	2	3	4	5
22	休み時間に友達と活動する	1	2	3	4	5
23	相手の話を聞く	1	2	3	4	5

事例・性別	A・男					
学年(H26年)	3					
主訴	構音障害					
当初の様子	初めての場所ではかなり緊張が強かった。ことばのテスト絵本に応じなかったが、他にやりたい活動を問うたところ(選択肢を示して問う)選択肢にない遊びを言った。ミニカーやポケモンの名前当てでは笑顔が見られた。					
ことばのテスト絵本	テストに応じなかった。/s/の音は浮動性があった。 tə/ts əe/se 指導を始めた後、側音化と分かる(イ列)					
平成26年度前半	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題である[kɪ]音の改善を図る ・思いついたこと感じたことを文章で表現できるようにする ・楽しく体を動かし言語活動を活発にする 				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舌を平らにし正中から息を出すこと [kɪ]音を含むことばビンゴ 音読</td> <td>本児が考えたトランポリンや風船バドミントンを行った。理解と表現を結びつけた体の動き、お互いに競う。視写に時間がかかることからその要因を探った。漢字の覚えにくさや細部への注意の欠如に不器用によるものが要因としてあげられる。書き順にとられることなく、基本的なこと(上から、左から)のみ押さえるようにした。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	舌を平らにし正中から息を出すこと [kɪ]音を含むことばビンゴ 音読	本児が考えたトランポリンや風船バドミントンを行った。理解と表現を結びつけた体の動き、お互いに競う。視写に時間がかかることからその要因を探った。漢字の覚えにくさや細部への注意の欠如に不器用によるものが要因としてあげられる。書き順にとられることなく、基本的なこと(上から、左から)のみ押さえるようにした。
	言語面	運動面				
舌を平らにし正中から息を出すこと [kɪ]音を含むことばビンゴ 音読	本児が考えたトランポリンや風船バドミントンを行った。理解と表現を結びつけた体の動き、お互いに競う。視写に時間がかかることからその要因を探った。漢字の覚えにくさや細部への注意の欠如に不器用によるものが要因としてあげられる。書き順にとられることなく、基本的なこと(上から、左から)のみ押さえるようにした。					
子どもの変容	[kɪ]音はわずかではあるが自己修正がみられるようになった。経験したことは担当者が尋ねると分かるように答えることができる。話したことを文で表現することは苦手としている。漢字を交えた文を書くようになった。	あまり変容はみられないが視写のスピードが上がった。書くことに抵抗がなくなった。				
平成26年度後半	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・[kɪ]の音の誤りに気づき直すことができるようにする。 ・経験したことを相手に分かるように話すことができるようにする。 ・自分で考えた遊びを楽しみながら体作りをする 				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舌の安定を図り正中から息を出す。 [kɪ]音の短文レベルでの学習、教科書の音読につなげる。経験したことを時系列に話す。</td> <td>体を動かすことは好きであるが、自分で納得しなければ活動しないところがある。そこで遊びを考えることは本児に任せ担当者は一緒に楽しむことにした。積み木サーキットや的当てを自分で考えた。現在はバドミントンに夢中である。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	舌の安定を図り正中から息を出す。 [kɪ]音の短文レベルでの学習、教科書の音読につなげる。経験したことを時系列に話す。	体を動かすことは好きであるが、自分で納得しなければ活動しないところがある。そこで遊びを考えることは本児に任せ担当者は一緒に楽しむことにした。積み木サーキットや的当てを自分で考えた。現在はバドミントンに夢中である。
	言語面	運動面				
舌の安定を図り正中から息を出す。 [kɪ]音の短文レベルでの学習、教科書の音読につなげる。経験したことを時系列に話す。	体を動かすことは好きであるが、自分で納得しなければ活動しないところがある。そこで遊びを考えることは本児に任せ担当者は一緒に楽しむことにした。積み木サーキットや的当てを自分で考えた。現在はバドミントンに夢中である。					
子どもの変容	[kɪ]音の自己訂正が前期より増えた。音読が滑らかになってきた。経験したことをよく話すようになった。本教室でやりたい活動が増えてきた。五色百人一首、漢字ゲーム(パズル的なもの)ことば遊びゲーム(関連することば、反対ことば等)	かまぼこ状の不安定な積み木でもバランスをとることができた。カード操作がすばやくできるようになった。				
平成27年度前半	指導目標	[kɪ]音の誤り音に気づき、直すことができるようにする。 漢字学習に意欲的に取り組むことができるようにする。 いろいろな遊びを工夫し、共に楽しむことができるようにする。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優しく声を出す。 教科書音読。 学習への意欲(漢字学習) 経験したことを分かるように話す。</td> <td>本児が遊びを考え共に楽しむ。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	優しく声を出す。 教科書音読。 学習への意欲(漢字学習) 経験したことを分かるように話す。	本児が遊びを考え共に楽しむ。
	言語面	運動面				
優しく声を出す。 教科書音読。 学習への意欲(漢字学習) 経験したことを分かるように話す。	本児が遊びを考え共に楽しむ。					
子どもの変容	優しく[kɪ]音を出すことができるようになった。自己修正がみられるようになった。漢字学習を契機にして、在籍校での学習に意欲的に取り組むようになった。漢字の小テストでは100点をとりたいと復習に励んだり分からないときは自分から聞くようになった。	バランスがとてもよくバランスボールに座ってバランスをとることができた。ゴルフコースを工夫し母親、担当者とともにその活動を楽しむことができた。				

	事例・性別	B・女	
	学年(H26年)	3	
	主訴	吃音	
	当初の様子	語頭の音は、ほとんど連発、難発であった。発話の構えから音が出てこず両唇音では長いときには20秒ほど口をパクパクさせていた。Lsss!!!と無声音を出しているときもあった。音が出ないときには目のあたりに緊張が見られ、目をつむるような随伴症状があった。椅子を手でギュッと握る。足を触るなどの動きも見られた。	
	ことばのテスト絵本	構音e/s、o/φ、d/η、t.tə/ts dz/dz /r/の音に省略、全ての音に浮動性があった。/φ、η/の音に関しては言語症状による音の誤り歪みと判断した。	
平成26年度	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもっていろいろな活動に取り組むことができるようにする。 ・ことばの状態を表現することができるようにする 	
	指導内容	言語面	運動面
		やわらかい声を出して音読する。 宿題を持ってきたときは本教室で取り組む。 吃音に関するアンケートをとる。 本教室でやりたい活動を伝える	制作活動(折り紙、はさみ、のり等を用いて) 縄跳び トランポリン 大玉を使った運動
前半	子どもの変容	随伴症状はほとんど見られなかった。また発話の構えから音が出てこないことも減った。軽いブロックはまだある。自分が言いにくいことばがわかる。	
平成26年度	指導目標	同上	
	指導内容	言語面	運動面
		やわらかい声を出して音読する。 宿題を持ってきたときは本教室で取り組む。 吃音に関するアンケートをとる。 本教室でやりたい活動を担当者に伝える。	制作活動(折り紙や色画用紙、はさみ、のり等を用いて)縄跳びトランポリン、ドッジボール
後半	子どもの変容	吃症状を友だちに指摘されていやな思いをしたことを担任に伝えることができた。言いにくいことばがわかる。 自分の吃の状態をことばで表現することができた。 苦手だった算数が好きになった。	
平成27年度	指導目標	自信をもっていろいろな活動に取り組むことができるようにする。 吃の状態が分かり、自分のことばで表現することができる。	
	指導内容	言語面	運動面
		音読は担当者と一緒に読む。 ことばの調子のアンケートをとり、自分ことばの状態を知る。 やりたい活動を担当者に伝え説明する。	制作活動 ドッジボール、バレーボール、トランポリン縄跳びなどの運動
前半	子どもの変容	随伴症状がなくなってきた。 自分の気持ちややりたい活動をみつけ話す。 楽にどもっている(くり返しや伸ばしがある)よくしゃべる、おしゃべりである。家庭でもおしゃべりになってきたそうである。	

事例・性別	C・男					
学年(H26年)	4					
主訴	構音障害					
当初の様子	発音の誤り以上に、分かりにくい話し方、ゆっくりな話し方があり、手先の巧緻性や運動面でも発達の遅れがみられる。ケンパやケンケンパはできず、スキップもできなくて、逆回りと言ったら、後ろ向きに進んだ。					
ことばのテスト絵本	歯間化構音で[tsu]が[ta]、[ei]が[toi]、[ca]が[tea]、/s/が/t/に置換、全ての音に浮動性が見られた。ことばがつまる、繰り返すといった吃も見られた。					
平成26年度	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なところを探りながら、学習しやすい方法を考えていく ・[サ]の音を正しく言うことができるようにする ・協調運動や巧緻運動に取り組む 				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>/サ/行が/シャ/行になることがあるのでサ行の音の定義を図る練習をしてきた。また舌先を左右の口角につけたり、空中移動をしながら左右の口角に動かす練習をした。/サ/行は単語レベルでは言うことができるが、自分で誤りを訂正することができないため、音を正しく聴き取る力をつけ自分でフィードバックできるようにしている。</td> <td>体重が48kgあり上半身の動きがぎこちない。また全身の筋力が弱いためボール運動やバランスをとる運動が苦手である。そのため協調運動や巧緻運動に取り組んでいる。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	/サ/行が/シャ/行になることがあるのでサ行の音の定義を図る練習をしてきた。また舌先を左右の口角につけたり、空中移動をしながら左右の口角に動かす練習をした。/サ/行は単語レベルでは言うことができるが、自分で誤りを訂正することができないため、音を正しく聴き取る力をつけ自分でフィードバックできるようにしている。	体重が48kgあり上半身の動きがぎこちない。また全身の筋力が弱いためボール運動やバランスをとる運動が苦手である。そのため協調運動や巧緻運動に取り組んでいる。
	言語面	運動面				
/サ/行が/シャ/行になることがあるのでサ行の音の定義を図る練習をしてきた。また舌先を左右の口角につけたり、空中移動をしながら左右の口角に動かす練習をした。/サ/行は単語レベルでは言うことができるが、自分で誤りを訂正することができないため、音を正しく聴き取る力をつけ自分でフィードバックできるようにしている。	体重が48kgあり上半身の動きがぎこちない。また全身の筋力が弱いためボール運動やバランスをとる運動が苦手である。そのため協調運動や巧緻運動に取り組んでいる。					
子どもの変容	<p>本児が話したい内容が担当者に伝わらないことが多かったが、話したい内容を紙に書き整理したり接続語を使って話をしたりしているうちに話が順序立ててできるようになってきた。また音読がたどたどしかったが、担当者の範読を聞いたり、交互読みで練習をしたりして文節ごとのまとまりで読むことができるようになってきた。/サ/行音が歪んでいる時に、自己訂正をすることはまだできていない。</p> <p>ボールを投げたり蹴ったりすることは好きだが、体重が増えていることもあり、体幹を保つことが弱く、全身バランスが相変わらず悪い。姿勢は両足を床につけるよう心がけたところ大きな崩れはなくなってきている。手先の動きは本児の気持ちに對して手先が思うように動かないことが多く、雑になりがちであった。</p>					
平成26年度	指導目標	同上				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>側音化のため、舌が口内におさまらず口を開いていることが多い。また、/サ/行音の歪みがあり他の音も聞きとりにくいことがある。 /サ/行音の単語レベルで語頭、語尾、語中の練習を毎回してきた。また舌を安定させる練習も続けてきた。コミュニケーションは順序立てた話が苦手なため、話したい事柄を紙に書き、それを見ながら話をするように指導してきた。</td> <td>ボールを投げることは好きだが、力加減ができずにいる。筋力が弱いので、全身でバランスをとる運動は苦手である。また、ハサミを使ったり紙を折る作業は雑になりがちであった。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	側音化のため、舌が口内におさまらず口を開いていることが多い。また、/サ/行音の歪みがあり他の音も聞きとりにくいことがある。 /サ/行音の単語レベルで語頭、語尾、語中の練習を毎回してきた。また舌を安定させる練習も続けてきた。コミュニケーションは順序立てた話が苦手なため、話したい事柄を紙に書き、それを見ながら話をするように指導してきた。	ボールを投げることは好きだが、力加減ができずにいる。筋力が弱いので、全身でバランスをとる運動は苦手である。また、ハサミを使ったり紙を折る作業は雑になりがちであった。
	言語面	運動面				
側音化のため、舌が口内におさまらず口を開いていることが多い。また、/サ/行音の歪みがあり他の音も聞きとりにくいことがある。 /サ/行音の単語レベルで語頭、語尾、語中の練習を毎回してきた。また舌を安定させる練習も続けてきた。コミュニケーションは順序立てた話が苦手なため、話したい事柄を紙に書き、それを見ながら話をするように指導してきた。	ボールを投げることは好きだが、力加減ができずにいる。筋力が弱いので、全身でバランスをとる運動は苦手である。また、ハサミを使ったり紙を折る作業は雑になりがちであった。					
子どもの変容	<p>音の歪みが多く、何を話しているのか分からないことがあった。また指導中に先程担当者が話した事が思い出せず、忘れてしまうことが多々みられた。</p> <p>椅子に正しく座ることが苦手で、すぐに両手を机の上に置き、前かがみの姿勢になってしまう。そのつど注意を促して姿勢を直すようになってきた。手先を使った活動を取り入れたところ、アイロンビーズを根気よく仕上げることができた。</p>					
平成27年度	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・[サ]行音をきれいに発音することができるようにする。 ・苦手なところを探りながら、学習しやすい方法を考えていく。 ・協調運動や巧緻運動に取り組む。 				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[シュ]が[ヒュ]に[デ]が[レ]になることがある為、音が安定してだせるように練習した。また[サ]の音を出す練習を続けてきた。</td> <td>本児の好きなバドミントンを毎回行っている。また、バランスボールやマット運動を取り入れて、体幹を鍛えるようにした。手先を使った運動は、紙を折る、切る等をしてきた。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	[シュ]が[ヒュ]に[デ]が[レ]になることがある為、音が安定してだせるように練習した。また[サ]の音を出す練習を続けてきた。	本児の好きなバドミントンを毎回行っている。また、バランスボールやマット運動を取り入れて、体幹を鍛えるようにした。手先を使った運動は、紙を折る、切る等をしてきた。
	言語面	運動面				
[シュ]が[ヒュ]に[デ]が[レ]になることがある為、音が安定してだせるように練習した。また[サ]の音を出す練習を続けてきた。	本児の好きなバドミントンを毎回行っている。また、バランスボールやマット運動を取り入れて、体幹を鍛えるようにした。手先を使った運動は、紙を折る、切る等をしてきた。					
子どもの変容	<p>前歯より舌先が出ている状態で音を発するために耳障りな音になっている。そこで舌を腔内におさめる練習や[サ]の音を出す練習をしたが、本児には無理があった。その為[サ]に近い音が出ればよしと判断した。今は、[サ]に近い音が出せるようになってきた。文レベルでは歪むが、指摘すると直すことができた。</p> <p>バドミントンは、力加減が分からず手首の動きが悪い為に担当者にシャトルが届くことはない。筋力が弱いので体全体のバランスが悪く動きがにぶい。手先を使った作業は苦手で、ハサミで紙を切る、切った紙をのりをつけて貼るという動きがぎこちない。また鉛筆で字を書くときは、とめ、はね、はらいに気をつけて書くことができず力のない読みとりにくい字を書いている。</p>					

事例・性別	D・男				
学年(H26年)	3				
主訴	吃音				
当初の様子	会話は自分からも話題をえらんで話すことができる。読んだ物語の内容や登場人物の気持ちをとらえることもできる。簡単なものなら良いが、自分がこれまで経験していないことや、知らないことが多いと考えがまとまらない。吃音症状について最近では自覚しているようだ。				
ことばのテスト絵本	吃音、/r,s,g,w/の音に歪み。場面ごとのお話は、聞かれたことについて少しずつだが、話すことができた。車の事故やつりの場面のようなものでは、流れをとらえることが苦手で、特に、この後どうなりそうという先を予想できないところがある。				
平成26年度	指導目標	本児が吃音について知り、自分の吃音を悪いものだ、ととらえず生活していける気持ちを育てる。			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日常生活の楽しかったことや、大好きなサッカーのことを話題に選びながら、思いや様子を話すやりとりをする。吃音症状について聞き取り、吃音についての知識を伝えながら本児がよりよく生活するために共に考える。必要な場合は、環境調整を行う。</td> <td>瞬発的に動くことはできるが、サッカーのチームでの周囲を見て動くこと、ボールを追いつつどうしたらよいのかと考えることはとても苦手だそうである。微細な動きまた手先の器用さでは力があるというところでない。集中して取り組むことができくり返し行っていると上達が見られる。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	日常生活の楽しかったことや、大好きなサッカーのことを話題に選びながら、思いや様子を話すやりとりをする。吃音症状について聞き取り、吃音についての知識を伝えながら本児がよりよく生活するために共に考える。必要な場合は、環境調整を行う。
言語面	運動面				
日常生活の楽しかったことや、大好きなサッカーのことを話題に選びながら、思いや様子を話すやりとりをする。吃音症状について聞き取り、吃音についての知識を伝えながら本児がよりよく生活するために共に考える。必要な場合は、環境調整を行う。	瞬発的に動くことはできるが、サッカーのチームでの周囲を見て動くこと、ボールを追いつつどうしたらよいのかと考えることはとても苦手だそうである。微細な動きまた手先の器用さでは力があるというところでない。集中して取り組むことができくり返し行っていると上達が見られる。				
前半	子どもの変容	吃音は、あまり波がなく、担当して丸一年を過ぎたが、今のところ、多い時期、少ない時期は分からない。音では、母音とま行音が出にくく、難聴、伸発が見られる。音読ではやわらかい声でなめらかに読めるが、漢字が分からないことが多いため、つかかる。			
平成26年度	指導目標	自分の吃症状について自覚し、場面ごとに自分の気持ちや様子を促していく			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月頃から、今までになく吃の症状が顕著になり、きっかけを探るために、吃音アンケートを定期的に行った。保護者からの聞き取りも度々したが、今のところはっきりせず、症状に変化がない(吃が多い)</td> <td>紙工作や作って遊ぶおもちゃ作りを通し、手先を細かく動かす力を加減することを行っている。集中が途切れると投げやりになることがあるが、徐々にできる時間は伸びている。通級に家から走ってくることもあり(保護者の自転車伴走あり)体力面では力がついている。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	11月頃から、今までになく吃の症状が顕著になり、きっかけを探るために、吃音アンケートを定期的に行った。保護者からの聞き取りも度々したが、今のところはっきりせず、症状に変化がない(吃が多い)
言語面	運動面				
11月頃から、今までになく吃の症状が顕著になり、きっかけを探るために、吃音アンケートを定期的に行った。保護者からの聞き取りも度々したが、今のところはっきりせず、症状に変化がない(吃が多い)	紙工作や作って遊ぶおもちゃ作りを通し、手先を細かく動かす力を加減することを行っている。集中が途切れると投げやりになることがあるが、徐々にできる時間は伸びている。通級に家から走ってくることもあり(保護者の自転車伴走あり)体力面では力がついている。				
後半	子どもの変容	出来事を大まかに話すことはできるが、少し詳細について訪ねると、分かるように説明できないことが多い。興味のあることや、話し方に幼さがあり、くり返し指導をしている。自分の吃症状について認める様子が出ている。			
平成27年度	指導目標	吃症状が増えた。その波の様子を把握するため環境の変化等きっかけを探る。			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年生の学年末から急につかえることご増えたが、その様子について分析していく。</td> <td>体を良く動かしているため、手先をよく動かすことを中心に行う。工作や絵を描く等を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	3年生の学年末から急につかえることご増えたが、その様子について分析していく。
言語面	運動面				
3年生の学年末から急につかえることご増えたが、その様子について分析していく。	体を良く動かしているため、手先をよく動かすことを中心に行う。工作や絵を描く等を行う。				
前半	子どもの変容	出来事を順序よく話す練習をした。本児の興味の示し片は幼いので同年代の子とのやりとりは少ない様で、同年代の子とも差がひらいてしまったことを母親も心配しているようだ。			

事例・性別	E・女					
学年(H26年)	2					
主訴	構音障害					
当初の様子	日ごろから、歩行で膝が外に開き、足は床に内股につくため早く滑らかに動けず、階段の昇降を片足ずつしにくい、手すりや友達と手をつないですることが多い。体が硬く、手先が少々不器用					
ことばのテスト絵本	誤り音や歪みが目立ったが、自分で思ったことを話すことはできる。長くはことばを続けるのは苦手で、単語のやりとりになりがち。/h//r/に歪み、dzi/gi、tai/ki taa/ke 浮動性あり					
平成26年度前半	指導目標	舌の安定をはかり、例音の発音が正しくできるようにする。 /d/行音は舌の構音点を意識できるようにする。 体の動きをなめらかにし、バランスよく運動を行うようにする。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>できることを、分かりやすく話すことは苦手だが、おしゃべりは好きである。あれが、あれで、とうまく言えないと指示語が多くなることが多い。後から、何が、や だれかと尋ねていくと、正しく言うことができるようになってきている。</td> <td>力が強く、小さいボールもドッジボールもかなり速くくねげるが取るのはまだむずかしいことがある。足は内反しているため膝は開いてがに股のようになっているため、ジャンプを続けたり、なわとびを跳ぶとすぐ疲れる、といってやめてしまう。リズムよく足を動かすのは苦手。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	できることを、分かりやすく話すことは苦手だが、おしゃべりは好きである。あれが、あれで、とうまく言えないと指示語が多くなることが多い。後から、何が、や だれかと尋ねていくと、正しく言うことができるようになってきている。	力が強く、小さいボールもドッジボールもかなり速くくねげるが取るのはまだむずかしいことがある。足は内反しているため膝は開いてがに股のようになっているため、ジャンプを続けたり、なわとびを跳ぶとすぐ疲れる、といってやめてしまう。リズムよく足を動かすのは苦手。
	言語面	運動面				
できることを、分かりやすく話すことは苦手だが、おしゃべりは好きである。あれが、あれで、とうまく言えないと指示語が多くなることが多い。後から、何が、や だれかと尋ねていくと、正しく言うことができるようになってきている。	力が強く、小さいボールもドッジボールもかなり速くくねげるが取るのはまだむずかしいことがある。足は内反しているため膝は開いてがに股のようになっているため、ジャンプを続けたり、なわとびを跳ぶとすぐ疲れる、といってやめてしまう。リズムよく足を動かすのは苦手。					
子どもの変容	右に口角を引くことがあるが、下顎ははずれなくなり、例音の歪みは減ってきていると思われる。口形を正しく作ることや、構音点を正しく発音する(意識しているよう)ことができ、自己訂正することができた。					
平成26年度後半	指導目標	舌の安定をはかり、例音の発音が正しくできるようにする。 /d/行音は舌の構音点を意識できるようにする。 体の後ろ側全般が非常に硬く、動きがなめらかでないところをよくしていく。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音については全体的に改善が見られるが、ダ行は前後の音により流されてしまうことがある。そのため、その点のみ意識せずに使いこなせるよう、音読ややりとりをしながら、うまくいかないところで止まって練習した。</td> <td>階段昇降、廊下歩行では約10cm幅の線を意識し、足の着地をするようにしている。柔軟体操、足のストレッチ、マッサージを行い、家庭でもできる時に行ってもらうことにしている。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	音については全体的に改善が見られるが、ダ行は前後の音により流されてしまうことがある。そのため、その点のみ意識せずに使いこなせるよう、音読ややりとりをしながら、うまくいかないところで止まって練習した。	階段昇降、廊下歩行では約10cm幅の線を意識し、足の着地をするようにしている。柔軟体操、足のストレッチ、マッサージを行い、家庭でもできる時に行ってもらうことにしている。
	言語面	運動面				
音については全体的に改善が見られるが、ダ行は前後の音により流されてしまうことがある。そのため、その点のみ意識せずに使いこなせるよう、音読ややりとりをしながら、うまくいかないところで止まって練習した。	階段昇降、廊下歩行では約10cm幅の線を意識し、足の着地をするようにしている。柔軟体操、足のストレッチ、マッサージを行い、家庭でもできる時に行ってもらうことにしている。					
子どもの変容	H27年1月頃より不登校傾向になり、通級回数が増えなかった。たまに本教室に来るときにはリラックスして体を動かし、気が進まない様子のあることは、行わないようにしていた。					
平成27年度前半	指導目標	[ダ・ラ]行音の構音点を安定させ、文レベルで正しい音を出すことできる。 体の背面(とくに足)の柔軟性を高め、滑らかな動きができる。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舌、口唇の動きを良くすることで発音をよくする。指示を聞き理解する。わからないところを「分からない」と言え、その都度聞くことができるようにする。</td> <td>歩行(平地、階段昇降)の際の足の運びに気を付けて歩く。足の後ろを側を伸ばす、柔軟体操ふくらはぎ～足首～足裏のマッサージをする。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	舌、口唇の動きを良くすることで発音をよくする。指示を聞き理解する。わからないところを「分からない」と言え、その都度聞くことができるようにする。	歩行(平地、階段昇降)の際の足の運びに気を付けて歩く。足の後ろを側を伸ばす、柔軟体操ふくらはぎ～足首～足裏のマッサージをする。
	言語面	運動面				
舌、口唇の動きを良くすることで発音をよくする。指示を聞き理解する。わからないところを「分からない」と言え、その都度聞くことができるようにする。	歩行(平地、階段昇降)の際の足の運びに気を付けて歩く。足の後ろを側を伸ばす、柔軟体操ふくらはぎ～足首～足裏のマッサージをする。					
子どもの変容	単音、単語、単文では[ダ・ラ]の違いがはっきりわかるような発音になってきた。会話や音読ではまだできない。 指導中は動きが良くなり柔軟性が出てくるように感じるが続かない。体育ずわりから立つ、立ってしゃがむ等の動作ができない(うしろに両手をつけて一度あぐらをかいてから立つ)					

事例・性別	F・女					
学年(H26年)	5					
主訴	言語発達遅滞					
当初の様子	おっとりしていて「えっと、えっと・・・。」と会話もゆっくり。1対1や少人数だと自分の思いを話すことが多い。個別支援(算数)を4年生から始めた。3年生後半から登校渋りあり。					
ことばのテスト絵本	t.tə/ts、 [k.i, ə]側音化構音の傾向。その後音は気にならなくなった。					
平成26年度 前半	指導目標	(1)いろいろな活動を通して、語彙を増やしながらかやり取りを深めるなかで、自分の気持ちを伝えることができる。 (2)グループ学習を通して、仲間とともに活動を楽しむことができる。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)月ごとのクロスカード、同じ音のことばや反対のことばのプリント、スリーヒントクイズを作り、絵日記をもとにしたやり取り、料理の紹介等を行った。 (2)ビンゴ、すごすごろく、行事のカルタのリーダー、等を行った。</td> <td>主に(2)のグループ学習で行った。活動例 ソーラン節(運動会で行ったもの)、ブランコ、サッカー、バドミントン、トランポリン、フラフープ</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	(1)月ごとのクロスカード、同じ音のことばや反対のことばのプリント、スリーヒントクイズを作り、絵日記をもとにしたやり取り、料理の紹介等を行った。 (2)ビンゴ、すごすごろく、行事のカルタのリーダー、等を行った。	主に(2)のグループ学習で行った。活動例 ソーラン節(運動会で行ったもの)、ブランコ、サッカー、バドミントン、トランポリン、フラフープ
	言語面	運動面				
(1)月ごとのクロスカード、同じ音のことばや反対のことばのプリント、スリーヒントクイズを作り、絵日記をもとにしたやり取り、料理の紹介等を行った。 (2)ビンゴ、すごすごろく、行事のカルタのリーダー、等を行った。	主に(2)のグループ学習で行った。活動例 ソーラン節(運動会で行ったもの)、ブランコ、サッカー、バドミントン、トランポリン、フラフープ					
子どもの変容	(1)絵日記を見ながら思い出したことを沢山話した。 (2)「水族館にいるもの」のビンゴでは書くものが思いつかないのとのメンバーと一緒に図鑑で調べた。行事カルタのルールを書いて伝えた。	ブランコを好んだ。そのあと他のメンバーとサッカーやバドミントンを苦手ながらも楽しんだ。ソーラン節はクラスで運動会に向けて繰り返し練習して動きを覚えたので通級時にはすぐに恥ずかしさを忘れて踊った。				
平成26年度 後半	指導目標	(1)(2)とも同じ				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)月ごとのクロスワード、スリーヒント県名クイズ(校内職員への出題を行った)修学旅行を引率した校内職員への日光インタビュー4コマ漫画を順番に並べて台詞を書き、役になりきって言う活動等を行った。 (2)県名クイズ出題、坊主めぐり、SSTのボードゲーム(なかよしチャレンジ)等を行った。</td> <td>個別の時間に運動会の組み体操の動きやブランコを行った。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	(1)月ごとのクロスワード、スリーヒント県名クイズ(校内職員への出題を行った)修学旅行を引率した校内職員への日光インタビュー4コマ漫画を順番に並べて台詞を書き、役になりきって言う活動等を行った。 (2)県名クイズ出題、坊主めぐり、SSTのボードゲーム(なかよしチャレンジ)等を行った。	個別の時間に運動会の組み体操の動きやブランコを行った。
	言語面	運動面				
(1)月ごとのクロスワード、スリーヒント県名クイズ(校内職員への出題を行った)修学旅行を引率した校内職員への日光インタビュー4コマ漫画を順番に並べて台詞を書き、役になりきって言う活動等を行った。 (2)県名クイズ出題、坊主めぐり、SSTのボードゲーム(なかよしチャレンジ)等を行った。	個別の時間に運動会の組み体操の動きやブランコを行った。					
子どもの変容	(1)クイズやインタビューでは①担当者と一緒に資料をもとに内容を考えて書く②練習する③実際に行うを本児のペースで丁寧に言うと、やり取りが深まり、嬉しい気持ちや初めて知って驚いた気持ちなどの表出が増えた。 (2)坊主めぐりでは、大きい声を出して笑う姿が見られた。SSTのボードゲーム(なかよしチャレンジ)では控えめながらも他の児童の後ろで自分の考えを話せた。	運動会の組み体操の動きはあまりやりたがらなかった。校庭に出た時は以前から好きなブランコを楽しんだ。				
平成27年度 前半	指導目標	いろいろな活動を通して語彙を増やしながらかやり取りを楽しむ中で、自分の気持ちを伝えることができる。				
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の体験したこと、家にいる時にしていることなどをやり取りを通して、全体を明らかにしていくようにした。できるだけ詳しく相手に伝わるようにすると、自分も相手も楽しいということを伝えながら話した。</td> <td>バドミントンを自分からやりたいと言ってやった。ラリーはなかなか続かずだったが楽しそうだった。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	自分の体験したこと、家にいる時にしていることなどをやり取りを通して、全体を明らかにしていくようにした。できるだけ詳しく相手に伝わるようにすると、自分も相手も楽しいということを伝えながら話した。	バドミントンを自分からやりたいと言ってやった。ラリーはなかなか続かずだったが楽しそうだった。
	言語面	運動面				
自分の体験したこと、家にいる時にしていることなどをやり取りを通して、全体を明らかにしていくようにした。できるだけ詳しく相手に伝わるようにすると、自分も相手も楽しいということを伝えながら話した。	バドミントンを自分からやりたいと言ってやった。ラリーはなかなか続かずだったが楽しそうだった。					
子どもの変容	家族の話や好きなタレントの話などを好んだ。担当の質問にじっくり答えを探す姿勢が感じられた。なぜ不登校気味でどうすると出てこれそうか、どうすることも話題にしたが、学校に続けて来るに至っていない。	継続してみることができていないので、変容はみられなかった。				

事例・性別	G・男				
学年(H26年)	2				
主訴	構音障害・言語発達遅滞				
当初の様子	e/s、təi/k.i、tə/ts、dz/dzIに置換。1年生6月より通級を開始し、[k]の音は改善。現在[s]の音を[a]から誘導中だが、癖が強く苦戦している。こだわりが強く、お気に入りの枕カバーがないと通級中かんしゃくを起こす。手先の動きや体の動きにぎこちなさがある。知的水準は標準と思われる。母子分離に課題有。				
ことばのテスト絵本	絵を見て話す場面では、「どうしたの」とまとめて尋ねると「わかんない」と答えたが、「この女の子は」「この男の子は」などと限定して尋ねると状況を話すことができた。				
平成26年度 前半	指導目標	(1)サ行音の誘導を図る。 (2)[ケ・キ]の音の般化を図る。 (3)母親とともに本児の特性を共有し、関わり方を考える。(多少のこだわり、指しゃぶり、かんしゃく有。母子関係はべったりで課題有)			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)/s/の誘導を図るが舌を歯の裏の位置で安定させることがどうしてもうまくいかないため、[θ]の音で進めている。[s]の単音、母音とのつなぎから始め、2語文中まで進んだが、自由会話の中での般化に苦戦している(2)昨年度中に[ケ・キ]の音は改善し、般化までクリアしたと思われたが最近音の崩れが見られるため短いフレーズで再定着を図っている。</td> <td>舌の安定、舌の挙上トレーニング、舌に力を入れたり抜いたりするトレーニング、口の周りの筋肉をきたえるトレーニングなどを行った。 全身運動としては、短縄、大縄、バスケットゴールへのシュート、野球、ドッジボール、けんけん鬼ごっこ、パランスボール、フラフープなどを行った。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	(1)/s/の誘導を図るが舌を歯の裏の位置で安定させることがどうしてもうまくいかないため、[θ]の音で進めている。[s]の単音、母音とのつなぎから始め、2語文中まで進んだが、自由会話の中での般化に苦戦している(2)昨年度中に[ケ・キ]の音は改善し、般化までクリアしたと思われたが最近音の崩れが見られるため短いフレーズで再定着を図っている。
言語面	運動面				
(1)/s/の誘導を図るが舌を歯の裏の位置で安定させることがどうしてもうまくいかないため、[θ]の音で進めている。[s]の単音、母音とのつなぎから始め、2語文中まで進んだが、自由会話の中での般化に苦戦している(2)昨年度中に[ケ・キ]の音は改善し、般化までクリアしたと思われたが最近音の崩れが見られるため短いフレーズで再定着を図っている。	舌の安定、舌の挙上トレーニング、舌に力を入れたり抜いたりするトレーニング、口の周りの筋肉をきたえるトレーニングなどを行った。 全身運動としては、短縄、大縄、バスケットゴールへのシュート、野球、ドッジボール、けんけん鬼ごっこ、パランスボール、フラフープなどを行った。				
平成26年度 後半	指導目標	(1)サ行音[ツ]の音の誘導を図る。 (2)(3)は同じ。			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)サ行音は(θ)の音での明瞭度の向上を図った。特にきれいな音が出やすい[サ]と[ス]の音は、かけ算を中心に日常生活でつかえるよう担任、保護者、担当で共通の声かけを行った。また聴覚的な誤りの目立つ[ツ]の音の誘導を図った。[タ+ス(θ)]→[t+θ]で舌を挟んだ[ツ]の音を生成した。 (2)下顎の動きが見られるため再指導中。 (3)母親の迎えを遅くしてもらった。</td> <td>舌の安定([エ]→[イ])舌に力を入れたり抜いたりするトレーニング、舌の挙上トレーニング、口の周りの筋肉をきたえるトレーニングなどを行った。 全身運動としては、野球、ドッジボール、バドミントン、風船バレー、フリスビーなどを行った。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	(1)サ行音は(θ)の音での明瞭度の向上を図った。特にきれいな音が出やすい[サ]と[ス]の音は、かけ算を中心に日常生活でつかえるよう担任、保護者、担当で共通の声かけを行った。また聴覚的な誤りの目立つ[ツ]の音の誘導を図った。[タ+ス(θ)]→[t+θ]で舌を挟んだ[ツ]の音を生成した。 (2)下顎の動きが見られるため再指導中。 (3)母親の迎えを遅くしてもらった。
言語面	運動面				
(1)サ行音は(θ)の音での明瞭度の向上を図った。特にきれいな音が出やすい[サ]と[ス]の音は、かけ算を中心に日常生活でつかえるよう担任、保護者、担当で共通の声かけを行った。また聴覚的な誤りの目立つ[ツ]の音の誘導を図った。[タ+ス(θ)]→[t+θ]で舌を挟んだ[ツ]の音を生成した。 (2)下顎の動きが見られるため再指導中。 (3)母親の迎えを遅くしてもらった。	舌の安定([エ]→[イ])舌に力を入れたり抜いたりするトレーニング、舌の挙上トレーニング、口の周りの筋肉をきたえるトレーニングなどを行った。 全身運動としては、野球、ドッジボール、バドミントン、風船バレー、フリスビーなどを行った。				
平成27年度 前半	指導目標	(1)サ行音[ツ]の音の誘導を図る。 (2)[ケ・キ]の音の般化を図る。			
	指導内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>言語面</th> <th>運動面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)[θ]の音でサ行音[ツ]の音が複数入った2～3語のフレーズで音のつなぎを滑らかにする練習を行った。また、正しい舌の位置への誘導を行ったところ、[シ]の音から舌を挙上させていき/S/音を出すことができた。 (2)下顎の動きがないよう脱力と安定を図っている。</td> <td>舌の挙上トレーニング、舌の安定のトレーニングを行った。 全身運動としては野球、ドッジボール、バドミントン、フリスビー、なわとびを行った。</td> </tr> </tbody> </table>	言語面	運動面	(1)[θ]の音でサ行音[ツ]の音が複数入った2～3語のフレーズで音のつなぎを滑らかにする練習を行った。また、正しい舌の位置への誘導を行ったところ、[シ]の音から舌を挙上させていき/S/音を出すことができた。 (2)下顎の動きがないよう脱力と安定を図っている。
言語面	運動面				
(1)[θ]の音でサ行音[ツ]の音が複数入った2～3語のフレーズで音のつなぎを滑らかにする練習を行った。また、正しい舌の位置への誘導を行ったところ、[シ]の音から舌を挙上させていき/S/音を出すことができた。 (2)下顎の動きがないよう脱力と安定を図っている。	舌の挙上トレーニング、舌の安定のトレーニングを行った。 全身運動としては野球、ドッジボール、バドミントン、フリスビー、なわとびを行った。				
平成27年度 前半	指導目標	(1)S/音を出すことができるようになった。2年間どうしても挙上させたまま安定させることができなかった为本児自身非常に喜んでいる。単音でサ行音[ツ]はきれいに出来るが、ザ行音は[θ]の癖が残っているため指導中。 (2)きれいに出来ることもあるが浮動性有り。自由会話中では、まだ誤り音が目立つこともある。			
	子どもの変容	体が大きくなり、服がピチピチのことが多い。夏休み明けにはかなり体重が増えており、運動はほとんどしなかったようだ。ボール投げは腕だけで投げ、狙った方向にいかないことが多いが、動きを分化するとよい投げ方ができる。ボールをバットで打つことはほとんど上手になってきており、ボールを最後まで見ること、バットをふりまわることが特に上手にできるようになった。ただ、右打ちの打席で構えつつ持ち手の上下が反対になってしまうことが多い。すぐに「疲れた。」と言って座りたがる様子が見られた。			

事例・性別	H・男	
学年(H26年)	2	
主訴	構音障害・吃音・言語発達遅滞	
当初の様子	吃症状は語頭音の連発、伸発、難発が多い。体全体を仰け反らせて出そうとする随伴症状も見られる。通級時に「やさしくゆっくり話すといいやすい」を体感しているが、日常にはつながついていない。	
ことばのテスト 絵本	tə/ts, dz/dz, ə/a t/k d/g は浮動性あり。/r/省略、s⇄θ 混同あり	
平成 26 年度 前半	指導目標	(1)吃音についてのにの情報提供をもとに、自分の吃音について考えたり、楽な話方を実践したりする。 (2)いろいろな活動を通して相手とのコミュニケーションを楽しみ退陣関係を育てる。 (3)(平成25年度[カ]、ギャ行)[ス][ズ][ツ][ザ][ゼ][ゾ][ジ]の音の改善、自由会話での定着を図る。
	指導内容	言語面 (1)優しくゆっくりしりとりをした。短い詩をリズムにのって読んだ。吃音について考えたり話したりした。 〔「吃りカルタ」「すごすごろく」〕吃音児とのグループ学習を行った(小1男子、小4男子) (3)それぞれの音について聞き分け自由会話までの構音練習表記を行った。
		運動面 (1)と関連して床に仰向けになったり、ジャンボ触覚ボールにうつ伏せに乗ったりして、体の力を抜いた。 (3)と関連して顔の筋肉を動かす 口と舌の体操、舌の脱力(言語面の指導に含まれるかも)
子どもの変容	(1)「一緒に読むとつかえない。」「優しくゆっくり言うといいやすい。」「声は小さくてよい。」「リラックスしているといいやすい。」「(クラスでの音読は)指名より順番の方がいい。」「等と実践したり話したりした。通級時にはできることが増えたが、日常生活では、難発、連発、伸発が見られる。 (3)比較的スムーズに進んだ。自分の音の誤りに気付くこともあり、音への意識は高かった。	(1)は好んで行き、体の力が抜くことができた。(3)では、顔の筋肉を動かしたり口と舌の体操をしたりすることはできた。しかし、舌の脱力では、力んでしまい、「ルー」とは言っても舌の脱力(ホットケーキの舌と言っています)はできてなかった。
平成 26 年度 後半	指導目標	(1)(2)同じ (3)自由会話での[シャ][シュ][ショ]の音の改善、定着を図る。単音での[ツ]の音の改善、定着を図る。
	指導内容	言語面 (1)ジャンボ触覚ボールに乗ったり仰向けになったりして脱力し、優しく話すことにつなげた。シャボン玉でフーと優しく息を出す練習をした。クロスワードで文字を数えながらゆっくりことばを言う練習を行った。吃音児(小1男子、小4男子)とのグループ学習で吃音について考えたり話したりした。(「吃りカルタ」「すごすごろく」等) (3)聞き分け、構音練習、表記を行った。
		運動面 (1)と関連してジャンボ触覚ボールに乗ったり、仰向けになったりして、体の力を抜いた。 (3)と関連して顔の筋肉を動かす、口と舌の体操、舌の脱力[ツ]の練習で担当と手をつないでスケートをするイメージで体の力を抜いて講音するを行った。
子どもの変容	(1)クロスワードで文字を数えながらゆっくりことばを言ったり、連想ゲームで節をつけて「～と言ったら～」と言ったりすると、ことばが出やすかった。自由会話では時々「わからないけどたまに(食べる)」「最初はスローに言っ(それから)普通に言うことができる(吃らない)」「最近吃らないからもうすぐなおそう。」等と話す。 (3)[ツ]が[チュ]や[トゥ]になるので、体の力を抜いてリズムカルに言うようにすると正しい音に近付いてきた。	(1)ではジャンボ触覚ボールにうつ伏せに乗って担当者が体をゆすつ活動を好み、体の力を抜いてリラックスできた。 (3)では顔の筋肉を動かしたり、口と舌の体操をしたりすることはできた。しかし舌の脱力ではまだ力みが取れない。
平成 27 年度 前半	指導目標	(1)吃音について知り、自分の状態について考えたり、楽な話し方を探ったりする。 (2)色々な活動を通して相互のコミュニケーションを楽しみ対人関係を育てる。 (3)[シャ、シュ、ショ]の自由会話でに安定、「ザ、ズ、ゼ、ゾ」の音の改善、安定を図る。
	指導内容	言語面 (1)読むことを中心にやり、交代で読んだり、やわらかい声で話すことをした。 (2)3ヒントクイズや妖怪ウォッチクイズを作り、どんなクイズが楽しいかを考えたりした。グループ学習でお互いにクイズを出し合っ楽しんで。 (3)[シャ、シュ]のつく単語をあつめ、短文を作って練習した。
		運動面 ジャンボボールを使って相手に転がしながらしりとりをした。考えている間はつくようにしていた。トランポリンでとぶことをしたが、体全体を使って柔軟にとぶより体をブロック緊張するようにとんでいた。いち、に、さんで高くとべないかんじだった。
子どもの変容	吃音についてはいつも「調子がいい」とこたえていた。語頭でつかえてもその後するすと出るような時があり、読みの時はのどに力も入らずにやわらかい息でよめることが多かった。[シャ、ショ]については続くと誤りが目立つが1つ1つはきれいに言えるようになった。	はじめは自分のやりたいことに先走り、こちらの要求にこたえなかったが、だんだん関係ができてやるようになった。体全体の動きも身ぶり手振りも直線的なところは、あまり変容はみられていない。

おわりに

研究を終えて、発達性協調運動障害（DCD）について学んでいく必要性を痛感している。DCDは、明白な運動障害を伴うものではないにも関わらず、そして一生懸命に課題に取り組んでいるにも関わらず、運動困難が生じてしまうという、その状況は学習障害と似ていると思える。そして、このような子どもに対応するには、経験不足や努力不足で片づけられるのではなく、指導者の適切な指導が必要となってくると考えられる。運動は、「できた」「できなかった」が子ども本人をはじめ、周囲の子どもたちにも見て、わかるため、本人の苦手意識を助長しやすいものである。運動課題で、失敗し、失敗した気持ちが継続することで、運動に対する苦手意識が生じたり、自信を失ったり、低い自尊感情になったりすることになる。DSM-5では、神経発達症群／神経発達障害群の中に運動症群／運動障害群として、発達性協調運動症／発達性協調運動障害と位置付けられた。

これまで協調運動に課題のある子どもたちは、通常の学級の中で努力して過ごしてきており、その結果として二次的に低い自尊感情をいだくことも報告されている。このようなことを考えると、彼らに対して適切な指導を行う必要を強く感じる。このような指導ができる場の一つとして、「ことばの教室」があるのではないかと考えている。身体の適切な動きを作ることは、ことばで適切に対応することとも深く関係していると考えられる。子ども一人一人のニーズに応じた指導を「ことばの教室」で組み立てていく際に、協調運動面についても把握して、指導計画を立案していくことが大切ではないかと考える。

本研究は、「ことばの教室」の先生方の実践に支えられている。研究協力をいただいた「ことばの教室」のみなさま、事例検討会への参画と事例の報告にご了解くださったお子さんと保護者のみなさま、さらに事例検討会の会場の使用の許可をくださった「ことばの教室」設置校の校長先生はじめ管理職のみなさま、研究協議会で様々な知見を提供くださったみなさまに心から感謝を申し上げます。本研究が協調運動に課題のある子どもたちの指導に少しでも参考になれば、幸いである。

研究代表者

小林 倫代

科学研究費 基盤研究 (C) 課題番号 : 25381336
言語障害のある子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究
(平成 25～27 年度) 研究成果報告書
研究代表者 小林倫代

平成 28 年 3 月

著作 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

発行 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585

神奈川県横須賀市野比 5 丁目 1 番 1 号

TEL : 046-839-6803

FAX : 046-839-6918

<http://www.nise.go.jp>
